

学校教育目標	【藤の学び合い・響き合い】				
	○基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てます。(知) ○自分も友達も大切にする豊かな心を育てます。(徳) ○心と体を鍛え、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○地域の人やものを大切に、地域の一人として協同する力を育てます。(公) ○物事を多面的にとらえ、多様性を尊重しようとする態度を育てます。(開)				
学校概要	創立 54 周年	学校長 岸田 晋	副校長 高田 麻里	2 学期制	一般学級：18 個別支援学級：4
	児童生徒数： 566 人	主な関係校： 藤の木中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	藤の木中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<望ましい人間関係構築のためのコミュニケーション能力>	藤の木中学校	(自尊感情をもち、よりよい社会の形成に貢献する子ども) ・学ぶ意欲をもち、学習の基礎・基本を身に付け、活用できる子ども ・自らを律し、互いの良さを認め合い、協力できる子ども ・集団・社会に貢献しようとする子どもas ・アグティブラーニング、ユニバーサルデザインを意識した授業研究会の推進 ・児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を実施 ・小中合同研究会を活用したカリキュラムマネジメントの推進 ・小中合同学校運営協議会に向けての準備を推進 ・中学校の合唱コンクールの最優秀クラスの発表を聴く会や中学校の授業体験

中期取組目標	○一人ひとりを大切しながら学び合う学校を実現します。 ・「みんなちがってみんないい」を合言葉に、子どもの思いや願いを丁寧に受け止め、あたたかな人間関係を築きます。 ・学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業づくりを推進し、学力を向上させます。 ・学校を開き、地域や保護者、関係機関と協働して豊かな学びを創造します。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	学習指導	①望ましいコミュニケーション能力の育成を目指し作成した本校の教育課程の見直しを通して、さらなる充実を図る。主体的に学ぶ意欲を身に付けるべく、授業改善に努める。また、学習成果の報告の場としての藤の木フェスタをこれらの取組と関連させていく。② ICT教育や、教科担任制など、本校の教育課題に組織的に取り組んでいく。
徳	人権教育	①学校教育全体で道徳教育を充実させ、児童一人ひとりの個性を認め合い、相手に思いやりの気持ちをもって接することができる学校づくりを行う。②「ふれあい活動」で異学年の交流を行うことで、社会性やコミュニケーション能力を学んだり、児童の自主性を重んじながら思いやりや助け合いの大切さ、よりよい人間関係の構築を行うことができるようにする。③人権週間での取組を通して、人権に対する意識を高め、日常生活で常に意識できるようにする。
体	健康教育	① 健康診断・健康教育を通して、自分の体や健康な生活への興味・関心を高め、生活に活かせるようにする。 ② 正しい知識をもとに感染症の予防対策を行い、健康な体をつくるための行動ができることを目指す。 ③ 感染症対策をとりながら、外で体を動かす環境を整え、体力の向上を目指す。 ④ 衛生面に気をつけて、食べ物の働きを知り、健康に良い食事の摂り方を身に付ける。
公	社会とつながる学校	①学習を通し、地域の人との関わりや体験的に学ぶ場面を取り入れる。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通し、子ども自身が変容や成長を評価できるようにする。③地域行事へ参加し、積極的に地域の方々との関わりを通して、自己有用感を高められるようにする。
いじめへの対応		① いじめ防止対策会議を定期的(月1回)に実施し、いじめの認知、再発防止、未然防止の検討を行う。 ② 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を教職員が理解し、小学校の発達段階に応じた早期発見、早期対応ができる体制を充実させる。
人材育成・組織運営(働き方)		①中期学校経営方針を全教職員で確認し、各部署で協力して運営に当たるために計画を立て、連携を図ることによって、組織的に学校運営にかかわる意識を高める。②メンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって研修を行い、経験年数の浅い教職員の育成を図る。③業務の簡便化、効率化につながる働き方改革を行う。
特別支援教育		① 発達特性の理解や支援の研修会を実施し、児童が自己発揮し、安心して学校生活を送れるように、UDでの授業づくりや環境整備等に努める。② 児童指導専任教諭を中心に、児童の特性や発達段階等について学年や全教職員で情報共有し、問題の未然防止や適切な対応、問題解決に当たる。
地域学校協働活動		①1小1中ブロックの特性を生かしながら、学校運営協議会委員による学校関係者評価の精度を高めるために、学校運営協議委員が授業や行事に参観する機会を作る。②地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)が運営するキックコリ応援隊と協力し、子どもの健全な成長を目指す。